

AXES NEWS

SAPPORO

アクセスサッポロニュース

2006

JAN

1

NO. 261



11月25日(金)～27日(日)

WINTER SPORTS FESTA 2005 開く

主催
株ディー・オー・ディー

本格的なウィンタースポーツのシーズン入りに向けて去る11月25日(金)～27日(日)の3日間、「WINTER SPORTS FESTA 2005」が開催されました。

会場内には最新モデルや人気モデルを始めとする有名ブランドのスノーボード・スキー、ウェア、用品が一堂に展示販売され来場者は時の経つのも忘れて熱心に今年の自分をドレスアップするべく商品を手に取り見比べ、試着し、納得の一品を買い求めていました。

3日間とも先着限定日替わり特価品も用意され、早朝からOPEN待ちの来場者による長い列が出来ていて、年に1度のこの展示会を心待ちにしていたという雰囲気がそこにはありました。

その他会場内ではDJブースやステージが設けられ、トークを交えた各種コーナーでの商品紹介やお買い得情報の発信、アーティストによるライブが開催されました。

エンターテインメント性も併せ持つこの展示会を来場者は多いに満喫していました。



札幌流通総合会館

5000m²のイベント会場 ●サッポロの最先端情報発信スペース

発行/財団法人札幌産業流通振興協会

事務局/〒003-0030 札幌市白石区流通センター4丁目3番55号 TEL:011-865-5811 FAX:011-864-1290

<http://www.axes.or.jp>

EXHIBITION EVENT INFORMATION

1月2日(月)・3日(火)・4日(水)

10:00~17:00

初ホンダ2006

主催

札幌ホンダグループ

2006年は札幌ホンダグループ30周年の年。

2006年はお客様への感謝の年と考えます。

例年と違い日頃のご愛顧に対しお客様への感謝祭的要素をイベントに取り入れていきます。

今回の“初ホンダ2006”は「札幌ホンダグループのお正月」。会場内は縁日多数出店・もちつき・書初め・絵馬製作・おみくじ引きなど正月ムード満載。さらに名前だけのアンケートで抽選参加、はずれなしで女性の喜ぶ健康&ダイエット商品が多数あたります。商品総額200万円以上。家族揃って1日遊べるイベントです。お誘い合わせの上是非いらしてください。

1月7日(土)・8日(日)・9日(月)

10:00~20:00
(最終日は18:00)

北海道三菱初売りフェア & スキー・スノーボード赤札特価市 「まとめてドン」

主催

同 実行委員会

東京モーターショー出展、三菱自動車の新コンセプト軽自動車「i(アイ)」の展示や、ニューモデル「アウトランダー」のロックフォードフォズゲートのプレミアムサウンドの体験・大試乗会を開催いたします。

また、スキー・スノーボード赤札特価市では、人気メーカーの総数がなんと5万点!ジュニア・キッズモデルも豊富な品揃え。最大90%OFFなど激安価格で大放出!

さらに当日会場では子供に大人気ふわふわが大集合し昨年の約12,000人を上回る入場者が予想されます。

1月21日(土)・22日(日)

10:00~17:00

マツダ 新春 大フェア

主催

(株)マツダアンフィニ北海道

2005-2006日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞したロードスターや、デミオ・プレマシー・MPVなど、屋内・外展示場に新車・中古車合わせて200台を展示致します。

中古車コーナーでは会場限定特価車など、お買い得車を多数ご用意し、ご来場抽選会などのイベントも盛り沢山です。

また、当日は試乗車もご用意致しますので、お好きなお車を何度でもご試乗頂けます。

この機会に、是非アクセスサッポロへお越し下さい。

1月28日(土)・29日(日)

1月28日(土) 10:00~18:00
29日(日) 10:00~17:00

ハーレーダビッドソン & ビューエル アメリカンワールドフェスタ in 札幌

主催

ハーレーダビッドソン・ジャパン株式会社

ハーレーダビッドソン&ビューエルの新車・中古車が大集合する「アメリカンワールドフェスタin札幌」が開催されます。会場には実に約100台の車両が集まり、多彩な選択肢からお望みのモデルをお選びいただけます。さらには、カスタム車両・純正パーツ&アクセサリーの展示やウェア&グッズの販売、エンジンをかけてハーレーの鼓動を実際に体感できる“めっちゃタッチバイクコーナー”もあります。また、オリジナルの遊具も集まる“キッズヘブンコーナー”や“無料ドリンクカウンター”などもご用意。ご家族みんなでお楽しみいただけるビッグイベントです。

まちづくりの方向性について ～コンパクトシティを例に～

日本政策投資銀行
北海道支店企画調査課

佐藤 賢志

最近、まちづくりのキーワードとして「コンパクトシティ」という言葉をよく聞きます。

コンパクトシティとは、70年代にヨーロッパで環境問題などを念頭に提唱されたサステナブルシティ(持続性のある都市)からきた考え方であり、学者、国など提唱者によって概念に差が見られますが、ここでは現在、日本において取り組まれている事例などをもとに、いわば「日本版コンパクトシティ」について説明していくこととします。

コンパクトシティとは、どのようなものなのでしょう。簡単にまとめると次のような都市づくりのことを指しています。①近隣生活圏(徒歩圏)でも生活できるように都市を再構成していくこと、②都市の公共交通などを充実させて自動車に過度に依存しなくても利便性の高い都市づくりを行っていくこと、③多様なニーズに対応できるように都市の中心街を再生させていくこと、④環境問題と共生できる持続性のある都市づくりを行っていくこと、⑤個々の都市の経営能力の向上を図っていくこと、などです。

なぜコンパクトシティがまちづくりのキーワードとしてクローズアップされることになってきたのでしょうか。その背景にはいくつかの社会的要因があります。日本では、①少子高齢化の進展と人口減少の問題、②都市の郊外化と都心部の空洞化の問題、③都市化による地域コミュニティの消失の問題、④地球環境問題への取り組みとしてのこれまでの都市の在り方への反省、⑤財政難等を背景とした諸課題に対する広域連携の必要性の問題、などの解決すべき問題があり、これらに対する一つの処方箋としてコンパクトシティが注目されるようになってきたのです。

さて、日本において具体的にコンパクトシティをまちづくりの理念に掲げて諸取組を行っている都市の代表例として有名なのが青森市です。青森市は北海道と同じ多雪地帯で、都市の郊外化が進み市街地が拡大するにつれて除雪費用などの必要経費がかさみ、コンパクトシティを理念とする「都市づくりマスタープラン」を作成するに至ったのです。このマスタープランの特徴は、都市をインナー、ミッド、アウターというようにゾーニング(区域分け)して市街地内の利用方法を細分化し、インナーに都市機能・住宅整備の力を集約しようとしている点です。これによって、過度の自動車依存から脱却し、公共交通や徒歩圏内で利便性の高い都市づくりを可能にし、中心市街地への機能集中や既存ストックを活かした都市づくりで財政負担の少ない都市再構築を図ろうとしています。

では、北海道での取り組みはどうでしょうか。北海道は面積が大きく市街地が分散している自治体が多いので、なかなかコンパクトシティ化といっても難しい面があるのは確かです。しかしながら、日本、そして北海道の今後の社会的構造の変化などを考えますと、北海道においても本格的にコンパクトシティを論じても良い時期なのではないでしょうか。

次回のテーマは「北海道の農業」の予定です。

Elm
木
に
お
の



